

「被災地、戦場のよう」

チリ大地震 AMDAが支援訴え

今年2月、大地震と津波に見舞われたチリで緊急医療支援活動にあたった国際医療NGO「AMDA(アムダ)」

(本部・岡山市北区)の医師らが20日、岡山市内で記者会見し、現地の医療チームなどと協力しながら、乳幼児に対する医療支援を展開したことを話した。

チリでは2月27日、マグニチュード8・8の大地震が沿

岸部で発生。最大30センチ近くの津波にも襲われ、約4500人の死者が確認された。

会見には3月上旬に支援第1陣として派遣された医師の津曲兼司さん(33)と調整員の森田佳奈子さん(30)、同月下旬に第2陣として派遣された看護師の石岡未和さん(29)と大和玲子さん(28)が出席した。

津曲さんらによると、被害



チリ大地震の被災地で乳幼児の健診にあたる医療チーム＝AMDA提供

が甚大だった中部にある観光地で漁業が盛んなコンステイトウシオン入り。2歳以下の乳幼児を対象にした緊急支援プロジェクトを、チリ政府軍や現地の保健省州事務所、政府の医療チームと協力して実施した。

乳幼児約1000人の健康状態をチェックし、医薬品や高栄養ミルク、おむつを配給。手洗いについても指導した。貧しい家庭の中には、20日以上も子どもを風呂に入れていなかったり、おむつをつければなしにしていたりした親もいたという。

被災地の様子について、森田さんは「戦場かと思ったほど。津波で1ヶ月前の家屋が流されて何も無い地域もあった」と話した。津曲さんは「チリ政府が把握している情報と現地の状況に大きな隔りがあった」と指摘した上で「現地はこれから冬を迎える。水の汚染による感染症の対策が必要だ」と語った。

AMDAでは救済募金を受け付けている。郵便振替(01250・2・40709)で、口座名は「特定非営利活動法人アムダ」。通信欄に「チリ地震」と記入する。問い合わせはAMDAボランティアセンター(086・284・7730)へ。(塩野浩子)